



しえん便り

R6年7月
発行



青空が広がる日が多くなり、いよいよ夏本番が近づいて参りました。

みくまの支援学校では、子どもの視点に立った支援方法を皆さま方と共に考え、実践を互いに交流することで共に学びあう『相互往還』という考えのもと、地域の特別支援教育の理解と推進に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



今年度の特別支援コーディネーターです。

有本松子 中本憲央 尾崎賀津 望月信吾

中瀬真由美 峯地保行 浦木隆 新開佑香 鍋屋杏実

よろしくお願いします



今年度から加わった新メンバーの自己紹介です！

はじめまして、鍋屋杏実（なべやあみ）と申します。新卒で、初めて東牟婁地方に来ることになりましたが、この地域の人の暖かさを日々感じています。精一杯頑張りますので、これからよろしくお願いします。

今年度より本校コーディネーターになりました峯地保行（みねじやすゆき）です。地域の子どもたち一人一人に合った支援について、皆様方と一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

令和6年度特別支援教育コーディネーター等連絡協議会開催のお知らせ

7月初旬にお知らせを送らせていただきました。お手元に届いていますでしょうか？今年度は約5年ぶりに対面方式での協議会となります。また、来校が難しい方向けに講演会のオンライン配信も行います。ご参加お待ちしております！！

《日時》8月8日（木）10:00～14:30

《会場》みくまの支援学校 ※講演会はオンラインでも聴講いただけます。

《タイムスケジュール》

午前 講演会『集団の中で共感と自己肯定感を育む～9-10歳は具体的思考から抽象的思考、論理的思考への移行期～』

講 師：くまのワーク&カレッジ 支援員 河原京子氏

午後 分科会/同じ地域の先生方と、日々の悩みや感じていることを共有し合う予定です。

《申し込み》

お申込みはこちら

*専用申し込みフォーム、または FAX でお申し込みください。

*締め切りは7月16日（火）

*お問い合わせはみくまの支援学校支援部 TEL:0735-31-6101



きこえとことば・見え方相談会

今年度は、みくまの支援学校を会場に実施します。きこえとことば、見え方についての教育相談の希望がありましたら支援部までお問い合わせください！

▽たとえば、こんな相談をお受けしています。▽

○きこえとことば

聞き返しや聞き間違いが多い
呼びかけても振り向かない
発音がはっきりしない

○見え方

物に顔を近づけて見たり、斜めに見たりする。
物を探すのが苦手

※ろう学校、盲学校の専門の教員の相談を受けることができます。

※相談に関する秘密は厳守します。また、相談費用は無料です。

※希望者が多い場合など、今回の教育相談会への参加をお断りさせていただく場合があります。



～自信と安心と小さな植木鉢～

みくまの支援学校高等部窯業班の実践から

「ぼくも成長したなあ」

高等部作業学習、窯業班。A くんが粘土を優しく撫でるように伸ばしながら独り言のようにつぶやきました。卒業式の迫った2月の終わり、窯業教室には春の暖かい光があふれていました。

A 君は高等部3年生。地域の中学校からの進学。彼がみくまのを選んだ理由の一つは「窯業が好きだから」。入学から1年間はシーサーや植輪など好きなオブジェばかり作っていました。

1年生のB君は本校中学部からの進学。お皿や器作りの提案をしても「経験があるから大丈夫っす」と乾いた土を砕く作業に没頭する姿がよく見られました。作り始めてもすぐに潰してしまう。「やったことのある窯業」は彼に静かなプレッシャーをかけていた様です。

「自分の好きな形になるまで何度でもやり直せるんだよ。」

窯業の教育的長所はその可塑性にあるのでしょうか。作品の形は向き合う子どもたちの心や成長を映し出しているように見えます。

1年生の秋の販売活動で自分の作ったオブジェが初めて売れたA君は、その後「売れる作品」作りに目覚めます。大きさや重さ、形、耐久性などさまざまな検討を自らの作品に加えるようになり、オブジェは少しずつ変化、その作品作りは遊びから仕事へと動き始めます。

B君にはいつもの様に作った植木鉢を潰そうとした瞬間、友だちに褒められるといううれしい事件が起こります。実はB君、どうしても植木鉢の口が内側に入り込み全体的に丸いシルエットになってしまうのが嫌だったのです。褒められたB君は「簡単っすよ」と言いながらはじめて潰すことなく植木鉢をろくろから切り取りました。

Co 浦木

参考文献「障害のある人の働く姿から」三木祐和

続きは10月発行の支援だよりで…お楽しみに！